

第1問

5 10 15 20 25 30

5 A 大学や国学で儒教が重視され、律令制運用には戸籍や荷札など文書作成が必要だったため、官人たちが習字のために木簡に書いた。
 B 律令国家は、遣唐使を派遣し、唐から仏教経典や王羲之の書、その模本を持ち帰らせ、写経事業を推進し、書の手本の模写を進めたことで日本に書が定着した。そして、光明皇后などが王羲之の書の模写を行うなど、その書体が普及し、のちの三筆へとつながった。

第2問

5 10 15 20 25 30

5 祇園祭の実施は下京六十六町の総意として幕府に要求されたが、山鉾の巡行は各町の町衆により運営され、町衆が「山の綱引き賃」の支出など経済上の負担を負い、山鉾も町単位で用意された。その結果、山鉾の名称が町の名称になり、それぞれ独自の町法を定め、町を基本単位として行われる、町の自治のあり方が定着した。

第3問

5 10 15 20 25 30

5 A 幕府は天文方を設置し、新暦の作成・施行までの改暦作業を主導した。一方、朝廷は新暦として採用する儀式や命名などを行った。
 B 当初は中国の暦や世界地図を参考にしたが、幕府が漢訳洋書輸入制限を緩和すると、西洋天文学の漢訳書籍に依拠するようになり、その後、西洋天文学を直接翻訳した書籍を活かして改暦した。

第4問

5 10 15 20 25 30

5 A 西南戦争の鎮圧後、自由民権運動が高揚し、国会開設の要求が高まった。こうした状況の下で、立憲政体樹立を方針としていた政府は、府県会設置など民意を反映できる地方制度の整備をはかった。
 B 政府は、国会開設の勅諭を出し、君主権の強い立憲君主制の樹立に向けて準備をするなか、軍人の政治介入を禁止するとともに、天皇への忠節を説き、天皇を頂点とする軍隊の創設を目指した。